

ときわ 常盤地区振興協議会

■代表者：会長 千田 勲
 ■人口：12,673人（男 6,064人／女 6,609人）
 ■世帯数：5,195世帯
 ■拠点：常盤地区センター
 （水沢区台町2番12号 ☎4276）
 （平成24年8月31日現在）

結 -ゆい-

～ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ～

同地区で特徴的な施設の一つと言え「水沢競馬場」。この施設を使って、地区民の絆と親睦を深めようと平成20年に初めて開催したが、全国でも珍しい「人間ばんば大会」です。第5回大会のことしは

■人間ばんば大会

「安全・安心で住みよいまち常盤」を目指し、文化、スポーツ、青少年育成、防災防犯など幅広い活動を展開しています。ここでは多くの事業の中から特徴的な事業を紹介いたします。



力を合わせてゴールを目指す参加者

「人間ばんば」と言え、鉄製の馬場を競技を楽しみました。そのをばんば馬が引きまわす「人間ばんば」は文字通り馬の代わりに人がそれを引くもの。部門ごとに決められた負担重量の人がそれに乗り、ダートコース直線500mのタイムを競います。レースは、園児らが乗る総重量200kgのそりを保護者や先生10人で引く「幼稚園・保育園の部」から、300kgを7人で引く「一般の部」、趣向を凝らし

9月23日に行い、約500人が、普段立ち入りできない馬場で競技を楽しみました。

■りんりんパトロール



パトロールには子どもたちも参加

地域が一体となって安全・安心なまちづくりを推進するため、17年度から継続して取り組んでいるのが「りんりんパトロール」です。ハンドベルを鳴らしながら区内を巡回するこのパトロールは、町内会ごとに行われ、23年度は134回、延べ1924人が参加しました。



公園で測定を行う常任理事の皆さん

同協議会は、福島第一原子力発電所事故による放射性物質の飛散が問題となり、地区民の不安が広がる中、独自に放射線量の測定をことし3月から始めました。

市の定点観測では測定しきれない場所を補完するため、地区内の人が多く集まる場所など13カ所を実施。3回目の測定となった9月24日の結果は、地区の広報へ掲載するほか、市にも報告し、今後の除染活動の指標としていきます。

■放射線の線量測定

も一役買っています。20年度にはこの実績が認められ、県警察本部から「岩手県犯罪のない安全で安心なまちづくり表彰」を受賞しています。

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ6回目は、水沢区の常盤地区振興協議会を紹介いたします。

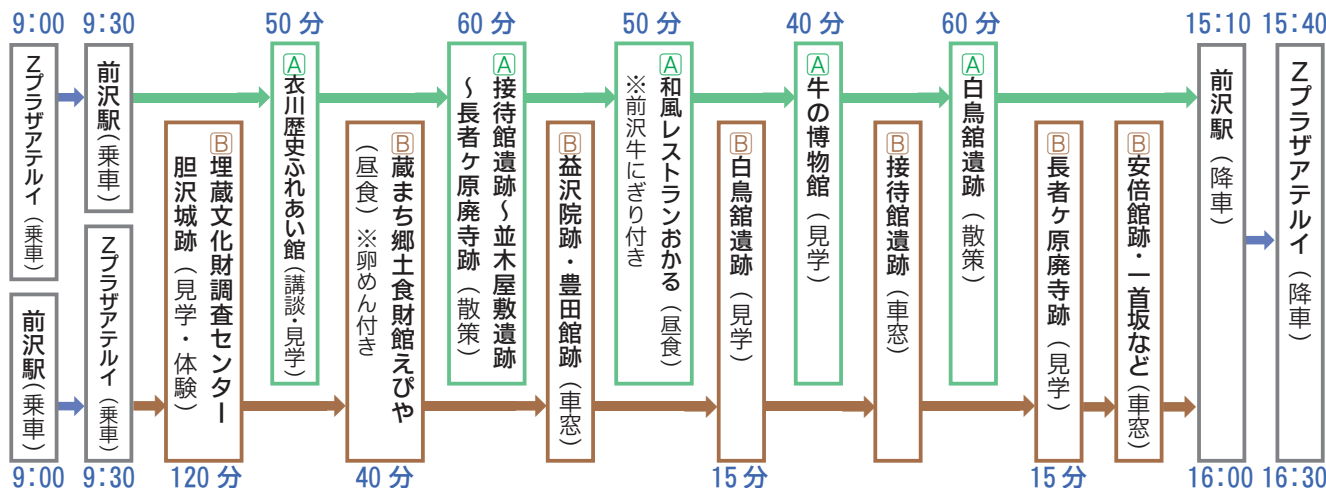
地元観光ボランティアガイドと行く 奥州ふるさと再発見号の旅 第1期



市は、市内の史跡や観光施設などを巡る「奥州ふるさと再発見号」を運行します。昼食には限定メニューを用意し、全運行日とも、地元観光ボランティアガイドが同行します。乗車には事前に予約が必要です。詳しい旅行条件については、申し込みの際に書面でお渡しします。お早めにご予約ください。

	内容	日程	料金
Aコース	世界遺産関連史跡の散策と前沢牛を学ぶ ※歩ける服装・靴で参加を	11/8 日	大人 2,500円 高校生以下 2,300円
		11/15 日	
		11/17 日	
Bコース	アテルイの時代から安倍氏・藤原氏時代までの縁の地を巡る	11/22 日	大人 1,500円 高校生以下 1,300円
		11/29 日	
		12/1 日	

●問い合わせ 本庁商業観光課観光物産係（内線 273）
 ●申込先 水沢ツーリストサービス（☎7301）



青少年が姉妹都市で国際交流



プライテンヴァング市庁舎前で



両市長からの親書を小沢市長に伝達

本市の高校生4人が8月20日から29日まで、オーストラリア共和国のロイテ市・プライテンヴァング市を訪れ、チロル地方の文化を学び、現地の皆さんと交流を深めました。滞在中には、両市の歓迎会に出席。姉妹都市締結のきっかけとなった、江刺区に工場があるプランゼー社や同社の職業訓練校を訪ね、ホストファミリーとハイキングや町の散策などを楽しみました。

9月27日の帰国報告会で、4人は衣食住の文化の違いやコミュニケーション力不足に気付いたと話し、小沢昌記市長は「視野を広げるためにもっと英語を学び、今回得た経験や価値観を今後に生かしてほしい」とエールを送りました。市長に届けた両市からの親書で、震災で中断した本市への派遣が来年再開する意向が伝えられました。



グレーターシェパトン市ムルーブナー中学校で授業を受けました

また、8月30日から9月7日まで、本市の中学生21人がオーストラリアのグレーターシェパトン市を訪れ、ムルーブナー中学校での学校生活やホームステイなどを体験しました。

生徒らは、9月28日の研修報告会で「移民の多い国だからこそみんなが協力し合う」「スケールが大きい」「よく感謝し合う」など、現地で感じた文化などを発表。同行した千葉正岐江刺第一中学校長からは「英語は大切だが心は言葉を超える。礼儀作法や場の心得があると感心された」と、参加者の成長ぶりを家族や関係者に報告しました。